

## 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

<b>事業名</b> 一般国道10号 <small>しんとみ</small> 新富バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局		
<b>起終点</b> 自：宮崎県児湯郡新富町大字日置 至：宮崎県宮崎市佐土原町大字下田島		<b>延長</b> 4.8km		
<b>事業概要</b> 一般国道10号新富バイパスは、児湯郡新富町から宮崎市佐土原町にかけて縦断する、宮崎市と宮崎県北部を結ぶ重要な路線であり、渋滞対策と交通安全の確保を目的として計画された延長4.8kmの道路である。				
S41年度事業化	S51年度都市計画決定	S41年度用地着手		
S41年度工事着手				
全体事業費	162億円	事業進捗率		
56%	供用済延長	2.3km		
<b>計画交通量</b> 27,100～38,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.8 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 59/244億円 (事業費: 54/203億円) (維持管理費: 5.3/41億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 161/1,174億円 (走行時間短縮便益: 116/997億円) (走行経費減少便益: 31/144億円) (交通事故減少便益: 14/33億円)	基準年 平成20年
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=3.0 (交通量+10%) B/C=2.5 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C=2.5 (事業費+10%) B/C=3.0 (事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=2.6 (事業期間+20%) B/C=2.8 (事業期間-20%)				
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保(現道の渋滞損失時間の削減が見込まれる) ・国土・地域ネットワークの構築(日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる)			他10項目に該当	
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 一般国道10号の渋滞に対する地元住民からの行政相談及び地元自治体からの対策を望む強い要望が出ている。(平成20年4月:新富町長等)				
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・沿線地域の自動車保有台数は年々増加、さらに、新富町から宮崎市への通勤通学人口も増加している ・事業区間の交通量は年々増加しており、2車線区間では混雑度が2.0前後で推移している。				
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成19年度末の事業進捗率は事業費ベースで約56%であり、そのうち用地進捗率は約77%に達している。				
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進するとともに、現道拡幅部の田中地区、日向大橋関連、バイパス部の完成4車線化等の事業進捗を図っていく。				
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 事業実施にあたっては、新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により、着実なコスト削減を図るとともに、早期供用による事業実施の時間的コストの低減に向け、計画的・重点的な整備により効率性の向上を図る。				
対応方針	事業継続			
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
<b>事業概要図</b>				



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。